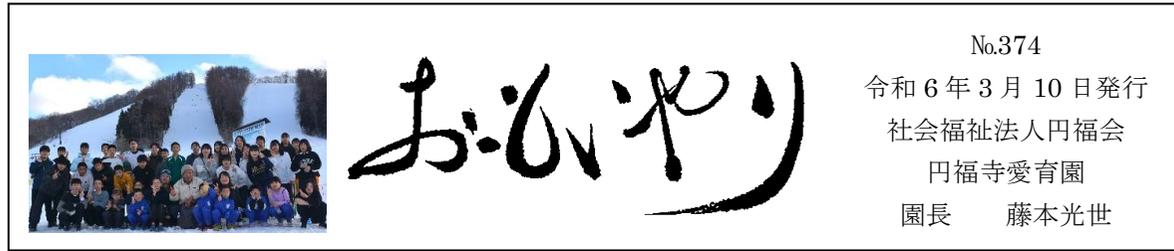


今年のスキー行事は、晴天の中、思いっきり楽しみました。



令和5年度を振り返って

園長 藤本光世

創立75周年

令和5年度は創立75周年の節目の年だった。

記念事業をすべて終えた今、やれることはやれたかなあ、出来ることはやったかなあ、そして今の愛育園の全てを出し切ったかなあと思っている。

今から、30年前の私の晋山式（住職の代替わりの式…これもとってみたいへんでした）のお斎の席（グリーンパレスの三階と四階と愛育園の体育館の三か所を使った。）で、生涯の無二の親友の吉田恒昭氏に急な挨拶をお願いしたところ（忙しかったのと、気が回らなかったのとで、あいさつを頼んでなかった）、彼が「藤本は何でも全力でやる」と褒めてくれた通りに、全力で取り組んで、今できる最高の記念事業にできたかなあと思っている。記念事業（児童居室全室エアコン設置等）、信濃毎日新聞二ページを使った全県全面広告…愛育園の今を県民に知ってもらおう…、100名以上の皆さまにおいでいただいた記念式典挙行、お母さん顕彰碑建立、記念誌の作成など、職員の協力を得て、そして社会福祉法人の役員の方々の皆さまはじめ、大勢の支援者関係者の協力を得て遂行円成することができた。私一人の力ではなく、父母の見えない力、仏さまの力、そして何よりも、16年かかって成長した今の職員の協力によってできたと思う。

昔、連盟の何かの会議だったろうか、あるいは父がどこかに書いていたのだろうか、児童養護施設が怖い所、恐ろしい所などの、一般の皆さまの悪評について、気にしている発言や文に出遭ったような覚えがある。その意味で、円福寺愛育園の75周年記念事業の広告は、あるいは式典は、児童養護施設がここまでできることを示し、確実に長野県の児童養護施設のステータスを上げ、良い評判を県民に与えたものと確信している。その意味で、円福寺愛育園は長野県の全ての児童養護施設に好影響を与えたのだ。

円福寺愛育園は75周年記念事業を立派にできたことを誇りにしている。

シエンタ購入

創立75周年記念事業の最後の一つとして、理事さんのご了解を得てシエンタを購入することにした。その理由は次のとおりである。

（令和6年3月10日発行 月刊「円福」522号付録）

愛育園の近くにはいくつかのスキー場がある。最近の地球温暖化とスキー人口の減少から、最も近くにある飯綱高原スキー場が閉鎖となった。ところが、このスキー場はリフトを撤去したものの、雪が整地されて、親子連れの子どもたちが無料で滑れるようなゲレンデができていた。職員がその情報を知って、ゲレンデづくりに私財を寄付して、しかも自分たちのボードを五つも持ってきて、21人もの男の子たちを連れて行って滑らせたという。そんな職員を本当に偉いなあ、愛育園の誇りだなあと思った。

昨年、聖高原スキー場へ子どもたちを遊びに連れて行ったと聞いた時はそり遊びだけだった。その時、スキー場へ行くなら、滑らせてやりたいなあという気持ちが浮かんでいた。

飯綱高原スキー場で、子どもたちは五つのボードを奪い合って滑ったという。それなら、スキーやボードを買ってやろう。話を聞いてそう思い、早速ボードを10セット、スキーを10セット買ってやった。（職員が喜んで、すぐに運動具店デポにとんで対応してくれた。子どもたちのために、こんなにも喜んで動いてくれるのは、本当に凄い。）急な話で、スキー教室に間に合わなかったのは、残念だった。

スキー教室が終って、土日に滑りに行くという。今、愛育園には公用車が4台ある。ボクシー（8人乗り）、セレナ（8人乗り）、ラフェスタ（7人乗り）フリード（7人乗り）である。職員がスキーやボードを積んで21人の男の子を引率してスキー場に行くには公用車をすべて使わなければならない。すると、女の子はどこへも行けない。実際に、まごころホーム（女の子）が公園に遊びに行くために1台使ったときは、職員に私用車を出して貰わなければならなかった。

今、職員は子どもたちのために全力で、喜んで支援してくれている。そんな職員に応えるためにも、もう一台購入しようと思った。ちょうど記念事業の年であり、しかもカンボジア支援ツアーに同行していただいた長野県倫理法人会の羽田会長（フジカーランド上田社長）が帰りの飛行機の隣の席だったことも幸いした。

いろいろなご縁に結ばれて、職員の努力に応えられて、嬉しく思っている。

（追記 洗車のこと）

愛育園の男の子たち（小学校2年生から高校3年生まで21人）は、毎週土曜日に公用車4台の洗車をしてくれている。寒くても、水をかけて、素手でスポンジをつかみ、洗って、拭いて、内外を隅々まできれいにしてくれている。偉いなあと思う。洗車をはじめて5年以上になると思う。子どもたちが車を汚すことがなくなった。そして、職員の小さな接触事故も無くなった。



公用車4台を管理棟と駐輪場の間に置いて洗車する子どもたち

このこともあって、車を買ってやれる。5台になっても洗車は大丈夫だ。

人生は苦 そして慈悲行

お釈迦さまは人生は「苦」であると申された。お釈迦さまが言う「苦」と同じかどうかかわからないが、愛育園の仕事を16年やってみて苦の連続であると感じている。令和5年度もまさしくそうであった。「苦」の内容はここに書けないけれど、「苦」の連続ということは「愛育園は人生の真実の中に生きている」ことである。「楽」にはならないし、なっちはいけないのだ。何故なら措置された子どもたちが大きな「苦」と「悲しみ」の中にいるからである。それが原因となって職員に対するさまざまな行動となる。職員はそれを乗り越え、子どもたちに幸せをもたらせようと、力を合わせて養育力を向上するのだ。それは、お釈迦さまのみ教えの慈悲行に他ならない。

一所懸命に、自分を賭けて慈悲行を追求できる仕事に携わるとは、なんと幸せなことではないか。

便教会新聞に、尊敬する鍵山秀三郎先生が一つのことをなすときに遭遇する困難について書いているのを思い出して、参禅会会員の牛山大輔氏に頼んでバックナンバーを探してもらった。それは次のような内容である。(便教会新聞第125号 H.28 12月)

「百万典経、日下の灯」

鎌倉の円覚寺、初代管長であった今北洪川師が書いた「禅海一瀾」に素晴らしい言葉が出ていたんです。「百万の典経、日下の灯」百万本のお経を読むほど勉強してただ知識として知っているだけで、太陽の下で蠟燭の灯に過ぎない。燦燦と輝く太陽の下で蠟燭の灯をつけたって何の意味もなさないのですよね。(中略)

ショウペンハウエルが言うように、どんな良いことでもそれが成し遂げられるまでに三段階あると本に書いてありました。第一段階は笑いものになる。善いことであればあるほど嘲笑される。さんざんに人から嘲笑されたり、笑われたり、冷たい目でみられたりしました。第二段階は笑っていた人が激しい抵抗をする。そんなことはしなくてもいい。あるいは反対をする。社内でも反対もありました。抵抗もありました。第三段階はこの二つのことを乗り越えると、最初に笑ったり抵抗したり反対したりした人がいつの間にかそんなことは分かっていたと同調する。掃除でもよくそういうことがあります。偉大な人であってもこんな体験をしているのかと知ったとき安心しました。(後略)

いろいろな抵抗があると、よっし始まったなあ、これ乗り越えていこうと取り組んで欲しいと書いてあった。愛育園も、「よっし始まった」の連続だけれど、私たちは正しい慈悲行をしていると確信して、乗り越えていこうではありませんか。

卒園式に向けて

主任指導員 T・M

3月24日に令和5年度の「卒園式」が行われます。今年は高校3年生の男の子と女の子の2人が卒園していきます。2人とも幼児期から長く園で生活してきて、先日、立派に高校を卒業し、4月からは社会人としての生活が始まります。

男の子の方のH君は、高校生活中に一度大きな問題がありましたが、そこから一生懸命立ち直って、自衛官になる夢を見つけて、見事に目標を叶える事ができました。

女の子の方のAさんは、就職活動が上手くいきませんでした。最後はリネンの会社から見事に内定をもらう事ができました。

高校3年間の2人の様子を見てみると、沢山の失敗があったからこそ、そこから本当に自分がやりたい事、本当に自分に向いている事を見つける事ができたように思います。

H君は、自分で物事を決める事が苦手です。でも、とても優しく力持ちです。最初は学校の先生になりたいという夢を持っていましたが、園での日々の生活の中で徐々に気持ちに変化が生まれて、災害で困っている人の役に立ちたいと思うようになりました。体力に自信があって優しく人に接する事ができH君にピッタリだと思います。私は、H君はお調子者で危なっかしい所もあるので心配もあるし、長年一緒に過ごしてきたのでとても寂しい気持ちもあります。でもそれ以上に、H君は人一倍寂しい気持ちを抱えた中で、それでも園での生活を本当に頑張って積み重ねてきた子なので、そんなH君を誇りに思う気持ちが強いです。自衛隊に行って、これまで身につけてきた力を存分に発揮して欲しいという大きな期待を持っています。

Aさんは、感情が表面に出づら子でした。あとちょっとプライドが高い所がありました。そのせいでしょうかは何とも言えませんが、就職活動の1社目は不採用になってしまいました。2社目はそんな自分自身を少し省みて面接練習をしっかり重ねて臨みましたが、また不採用でした。2社目不採用を受けて、Aさんは放心状態で涙を流していました。悔し涙など普段絶対に見せないAさんの感情が表にでて、そこからAさんは変わりました。表情や会話に人間味がすごく表出されるようになって、接しやすさや気持ちを感じられるようになりました。ずっと支えてくれていた担当の先生にも言葉で感謝を伝えていました。すると3社目はそれまでの苦戦がウソのように満点内定を頂きました。すごく感動しました。

私は、2人とも自分自身と向き合う事から逃げないで、立派だったなあと思います。日々の生活を頑張っていれば、キッカケひとつで良い方向に進んでいける事を2人の姿から感じました。そして、愛育園はそういう場所であるべきだと改めて思い、私自身も子ども達の問題・課題から目を背けない職員でいたいと思います。キッカケが来ることを信じて我慢強く日々頑張っていく事は大人でも大変な事なので、子ども達は本当にすごいなあと思います。

また、今年度卒園の2人も在園児童にも良い後ろ姿を見せてくれましたので、在園児童のみんなも後に続いて自立を目指して欲しいです。



<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

卒園式は、そうやって卒園生も在園生も気持ちを持って作り上げる行事です。今年度も皆で協力し合って一年間の良い締めくくりの行事にしたいと思います。



第8回国際箸学会箸技大会

あおぞらホーム F・K

2月3日に国際箸学会さんの主催する箸技大会に参加しました。今回の箸技大会では、昨年よりも広い会場で参加者も多く、大会が始まる前の所では子どもたちも少し緊張している様子がありました。しかし、始まってしまえば子どもたちは目の前の競技に集中し、練習してきた成果を発揮できるように全力で挑戦している姿がありました。周りの方々もそのような愛育園の子どもたちの姿をみて、すごいなと感心している方や応援してくれる方もいて、会場が愛育園の雰囲気になっていくのを感じ、子どもたちの周りに与える影響はすごいなと改めて感じました。

大会の結果としては、上位はほとんど愛育園が独占し、子どもたちにとっても満足のいく大会になったのではないかと思います。私は箸技大会を通して、たくさん練習し全力で挑戦するという経験は子どもたちにとって非常に有意義なものになっていると感じており、子どもたちが大人になっていく中で、箸技大会の経験が少しでも心に残ってくれていると嬉しく思います。

第8回国際箸学会箸技大会

あおぞらホーム A.K

2月3日国際箸学会が主催する箸技大会に参加させていただきました。子どもたちは三週間ほど前から練習を重ねてきました。今年から開設された小学生以下の部、一般の部ともに愛育園の子どもたちが上位を独占していました。

箸ピーの部、箸リンの部で見事二冠を勝ち取った6年生のTくんはとても満足気な表情を見せてくれました。Tくんは普段の練習にもとても熱心に取り組んでおり、本気で箸技大会に挑んでいるのがとても伝わってきていたので、Tくんが優勝したときは私もとてもうれしい気持ちになりました。

Tくんだけではなく、愛育園の子どもたちは日頃からの練習を熱心に取り組んでおり、その成果が今回の結果に繋がっているのではないかと思います。一つのことに本気で取り組める、愛育園の子どもたちはとても素敵だな、と改めて思いました。

第8回国際箸学会箸技大会 児童感想 あおぞら

第8回箸技大会

(令和6年3月10日発行 月刊「円福」522号付録)

今年も埼玉県で行われる箸技大会に全員で行きました。午前は「ジャンプ」の印刷をしている中島製本の工場を見学しました。本を作るまでに、たくさんの機械を使っていて、すごいなと思いました。そのあとは、Qiセンターで昼食を食べて、会場に向かいました。去年よりも、人数が多くて会場も広がっていました。本番では、箸ピーが全然だめでした。箸リンは、良い記録を出すことができ良かったです。駅伝では、自分以外は今回が初めてのチームでした。予選は2位でした。決勝には全体3位として進むことができました。けど、決勝では緊張もあつてか、5位という結果でした。決勝までいけたのはみんなのおかげだし、最後まであきらめず、ベストを尽くせたので良かったです。これで次に箸ピーをやるのは1年後だと思うので、来年も頑張りたいです。

(中3・Y君)



箸技大会

僕は、川口市の箸技大会に行きました。まず会場に入った時に急に緊張し始めて、落ち着かないまま大会が始まりました。最初に箸ピーで、緊張していたけど100個いけたからうれしかったです。積みピーでは手がふるえてしまいましたが、3段積むことができうれしかったです。箸リンは意外と記録が良かったです。箸ピー駅伝では1回目はよくできてたくさんよろこんでいて、2回目は僕がピーを落してしまって結果4位でしたが、6組のうち2組抜かすことができたので良かったです。箸技大会はすばらしいと思いました。来年はしっかりと練習して大会に行きたいです。

(中1・R君)

第8回箸技大会 in 川口市民ホール

自分は今回の第8回箸技大会で3つの良いことを体験しました。なので、自分はそのことを話したいと思います。1つ目は中島製本株式会社への見学です。見学では、雑誌や単行本の製本を見学しました。本を作る工程がとても多くあります。表紙を作ったり、作った本を整理したりします。そこで、一番驚いたのが、紙の残りをおしつめて、リサイクルすると言って、それが1個1トンぐらいの重さがあり、毎日20個ぐらいできると言って驚きました。1冊の本にそれほどの苦労と時間がかかると知って驚きました。2つ目は、箸ピー駅伝の事です。駅伝は、初めに前後5チームずつで予選が行われます。チャンピオン決定戦にいけるのは、前で3チーム、後で3チームの計6チームです。自分のチームは、見事予選4番目で通り、決定戦では3位のトロフィーがもらえて嬉しかったです。3つ目はアーサー・ビナード賞の事です。アーサー・ビナード賞とは、MVP賞とほぼ同じことです。アーサー・ビナードという人物は「雨にも負けず、風にも負けず」という本を英語訳した人です。自分はその賞が取れて、アーサー・ビナードのサイン入りの

本をもらいました。今回もとても良い1日になりました。ありがとうございました。

(高1・S君)



第8回箸技大会

2月3日に第8回箸技大会がありました。今回も、前回のよ
うに愛育園全員で埼玉県川口市に行き、箸技大会に臨みまし
た。まず、箸技大会の前に中島製本株式会社へ見学に行きまし
た。様々な種類の大きな機械を使って、途方のない作業を繰り返すことによってたくさんの本が
作られていることを知ることができました。僕の知らなかったことを知ることができて良かった
です。中島製本株式会社への見学が終わり、Qiセンターで昼飯を食べた後に、ついに箸技大会
の会場へ行きました。着くとたくさんの方が会場にいました。開会式を経て、大会が始まりまし
た。まずは箸ピーからでした。流行病の影響であまり練習はできませんでしたが、予選を通過す
ることができました。しかし決定戦では、ピーを2個落してしまい、あまりいい結果を出せませ
んでした。団体戦ではあおぞらチームとして出ました。なんとかまごころチームに勝ちたいとい
う思いで臨みましたが、予選・決定戦共に1位を取られてしまい、結果2位で終わってしま
いました。これが最後の大会でしたが、楽しくできたので良かったです。

(高3・H君)

第8回国際箸学会箸技大会 児童感想 まごころ

『箸技大会』

高1 Rさん

2月3日に埼玉県川口市のフレンジアという大きなホールで第8回箸技大会が行われまし
た。去年から園のみんなで行かせてもらっていて、今年も行けるとのことでとても楽しみにして
いたし、練習も頑張りました。本番とっても緊張してしまい園の箸技大会の時よりも記録が出ず、
くやしかったです。でもまごころチームとして団体戦に出た時は優勝することが出来ました。チ
ームのみんなと一緒に頑張ってくれたおかげです。本当に嬉しかったです。箸技大会だけではなく、
本を作っている中島製本所という会社を見学させてもらいました。たくさん大きな機械が
並んでいて、本ができるまでの道のりを知ることが出来ました。とても勉強になりました。箸技
大会すごく楽しかったです。また行けたらいいです。

『箸技大会』

高1 Uさん

2月3日に川口市の箸技大会がありました。大会に行く前に本を作る会社の見学に行きました。
普段よく本を読むけど、あんなふうにして本になっていくなんで知らなかったの、興味深かつ
たです。たくさんいろいろな機械があってすごいと思いました。箸技大会では、会場が広くてす
ごかったです。箸ピーの時は1回豆を落してしまって最悪でした。箸リンでは今までで一番の記
録が出て嬉しかったです。団体戦では優勝できたので良かったです。次は個人戦でもいい記録を
出したいです。

スキー行事

まごころホーム長 I・S

2月18日はスキー行事があり、みんなで戸隠スキー場へ行ってきました。18日はお天気も良く
最高のスキー日和でした。1年ぶりのスキーだったので、子どもたちの中には滑れるか心配して
いた子もいましたが、ちゃんと体は覚えていて、何本か滑っていると感覚が戻り、とても上手に
滑っていました。戸隠スキー場はコースがたくさんあり、自分のレベルに合わせて滑れたので最
後の最後まで楽しく滑ることができました。今回のスキー行事で初めてスキーをやった子もいま
した。午前中は自分で板を持って山を登り、ハの字の練習や止まる練習をし、午後には初めての
リフトに乗れました。最初は怖くてなかなか前に進むことができずにいましたが、何度も滑って
いるうちにすごく上達しました。最後には「楽しかった〜！」と飛び切りの笑顔を見ることがで
き、充実した1日を送れてとっても良かったです。中高生の女の子たちも普段はあまり活発的に
遊ぶことは少ないのですが、この日は何度も滑っていて、こんなに体力があったのか、とびっく
りしたぐらいです。みんなの顔を見るとすごく楽しかったという気持ちが伝わってくるぐらいい
い表情をしていました。事故やケガ無くスキー行事を終えることができよかったです。

スキー行事

あおぞらホーム Y・S

2月18日、愛育園ではスキー行事がありました。スキー行事は毎年計
画の担当は自分が主となってやっております。計画を立てる段階で、毎
年同じではなく今年は何か変化をつけることが出来ればな、と思っ
ていました。そこで、今年のスキー場は例年とちがうスキー場にし
てみようと思ひ色々下調べをして提案したところGOサインが出ました。

例年とは違うスキー場の為、下見から、レストランメニュー、レンタル、リフト券など全て一
から段取りを組み立てる必要がありました。何度も見直しをして、何度もスキー場と連絡を取り合
い、抜かりはないか何度もシュミレーションをして準備をしました。今回選んだスキー場は毎年
行っているスキー場よりもコースも多く多彩だったため「絶対子どもたちは喜ぶぞ」という思い



がありだからこそ必ずこの行事は成功させなければならないと言う使命感に燃えていました。そして、今年のおおぞらホームはスキーではなくスノーボードをやってみたい、という子どもが多かったです。しかし、子どもたちはスノーボードの難しさを軽く考えており、簡単に滑れるだろうという雰囲気でした。私たちはスノーボード一発目が行事ではおそらく楽しめないだろう、と思いつき何とか行く前に少しでも練習ができないかと考えていた所タイミングよく大雪が降りました、そして雪かきも兼ねて「園の中庭に雪山をこしらえてボードの練習場を作るぞ！」と中高生に声を掛けたところみんなこぞって雪山を作り始めました、一日目は低めの斜面でしたが二日目、三日目、とだんだんとカスタマイズされていき素晴らしい練習場が完成しました。そんな様子を見て、自分たちの遊び場を自分たちで作っているなんてなんてすばらしいんだ！と本当に感動しました。しかし、肝心の板がありません、そこで先生方が個人の板を持ち寄って下さり数少ない板を交代しながら練習に励みましたが、毎日のように学校から帰ってきては「今日もまた練習する」と言い出し励んでいました。飯綱にある無料開放しているグレンデにも出向き練習をしました。子どもたちの適応能力は高く目に見えてみんな上達していき、みんなだいたい滑れるようになったな、と思っていたころ職員の板を交代しながら使い練習をしていることを知った園長先生より「スキーとボードを10セットずつ購入してもいい」という話がありました。それはもう素晴らしい話で、とてもびっくりしました。ちょうど何週間か前にホーム長と「園専用のスキーやボードがあればみんなで気兼ねなく滑れていいよね」という話をしていた所だったため本当に夢がかなった気分でした。

反省点もありましたが結果的に事故等もなくスキー行事は無事に終わることが出来ました、自分にとってはいい行事にするぞと思って準備していた時の楽しさと、子どもたちが自分たちで雪山を完成させて張り切っていたこと、衝撃のスキー、ボード板購入がとても印象深かった行事になりました。



スキー行事 児童感想 おおぞら

2月18日にスキー教室がありました。今年は戸隠スキー場でいつもとは違うスキー場に行きました。僕は去年に引き続きスノーボードにしました。去年は初心者だったので後半から滑れるようになったものの、前半は全然滑ることが出来ず、終わった時にはもっと滑りたかったなあと感じていました。しかし、今年は去年に比べて技術が向上していたので沢山滑ることが出来ました。滑ったコースの中で一番楽しかったのはメノウコースというコースです。このコースは中級者コースで最大斜度が18度で少し急な坂でしたが、スピードを落としながら少しずつ下がっていく

ことが出来ました。今年のスキー場は沢山のコースがあり、とても楽しく滑ることが出来ました。今年は最後のスキー教室でしたが楽しく過ごせたので良かったです。

(高校3年生 Hくん)

2月18日に戸隠スキー場に行きました。僕は初めてのスノーボードに挑戦してみました。最初の方はあまりうまく滑れなかったけど2、3回目ぐらいから少し上達しました。リフトに乗るときに片足だけ外すので左足にボードがくるので疲れしました。リフトを降りることがとても難しかったです。慣れていくうちにターンができるようになり、一番上のお仙水コースに行きました。とても景色がきれいでした。後半になるとうまく滑れるようになりました。滑っているときに転ぶととても体中が痛かったです。でも、スノーボードに挑戦してみても楽しかったし、うまく滑れるようになったので良かったです。

(中学1年生 Hくん)



スキー行事 児童感想 まごころ

戸隠スキー場に行きました。園で行くのは初めてのスキー場で、どんなスキー場なのかワクワクしながら行きました。スキー場に到着してまず板などのレンタルをしてから、班ごとに分かれて滑り始めました。私は3班で、M先生と一緒に滑りました。最初はなだらかで一番低いコースから行きました。でも、けっこう滑れたので、だんだん高いところや急な所にも行きました。そして、少し高い所までリフトに乗っていくと、とてもきれいな山の景色が見れました。なので、やっぱり天気がいい日に滑ると、きれいな景色が見られて、とてもいい気持ちで滑れるなと思いました。どんどん高いところに行って、頂上まで行きました。頂上まで行く途中で、とても急なところがあって、こわかったけど、二回目はなんとかできたので良かったです。お昼はヒレカツにしました。お肉がサクサクしていておいしかったです。午後もたくさん時間があったので、たくさんいろいろなコースを滑りました。初めて行くスキー場で、とても緊張したけど、M先生と楽しく滑れてとてもいい思い出になって良かったです。あと、園長先生が、新しいスキー板やスノーボードを買ってくれたので、また、スキーをやりたいです。園長先生にたくさん感謝するために行事をこわさないようにみんなで楽しくやったり、買ってもらったものを大切に使って、園長先生への感謝の気持ちを表したいです。

(小6・Hさん)

2月18日にスキーに行きました。今年は戸隠スキー場に行きました。戸隠のスキー場はコー

<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

スがたくさんあり、いろいろなコースを滑りました。忍者コースなど、初心者でも楽に滑れたので良かったです。途中、転んでしまい大変なことになってしまいましたが、最後まで諦めず、滑りきれたので良かったです。お昼は角煮丼を食べました。お腹いっぱい食べることができたので、午後もたくさん滑りました。とても楽しかったです。来年も楽しく行けるように生活を頑張っていきたいと思います。

(高1・Rさん)

戸隠スキー場に行きました。スキー場はとても広くて色々なコースがありました。私はほとんど初心者コースを滑りました。午前中はT先生とUちゃんとRちゃんと一緒に滑りました。3人とも滑るのが早くてすごいなと思いました。私はあまりうまく滑ることができませんでした。午前中は5回くらいリフトに乗って、そのうち一回リフトを止めてしまいました。お昼はローストビーフ丼を食べました。ローストビーフが多くてとても柔らかくておいしかったです。午後、一回4人乗りのリフトに乗って少し急な所を滑りました。

転んでしまって、立つのにとても苦戦しました。午後は午前よりも早く滑れるようになりました。一年ぶりのスキーでしたが、楽しく滑ることができました。

(高3・Aさん)



あおぞらホームだより

あおぞらホーム S・S

とても寒い日が続いていますが、今月もあおぞらホームの子たちは元気に過ごしています。2月上旬に毎年恒例のスキー行事があったのですが、今回園長先生からのスキー・スノーボードのサプライズプレゼントがあり、土日の休みを利用し、雪山へ滑りに行きました。子どもたちはみんな大喜びで自分の力で雪山に上り、何度も何度も滑っています。スキーはほぼ全員滑っていて、スノーボードは数名しか滑れない状況だったのですが、日を追うごとの滑れる子が増えていき、結果スノボに挑戦した大半がターンをして滑れるようになりました。上達していくたびに表情も良くなっていき、身体も心も満たされているのを感じました。はしゃぎすぎてケガをする者が出てしまったのは残念な所もありましたが、子どもともたくさん交流し、充実した土日を送ることができました。

まごころホームだより

まごころホーム T・M

徐々に暖かく過ごしやすい日が増え、冬の終わりをを感じる時期になりました。2月は箏技大会、スキー行事、ホーム食とたくさんの行事がありました。まごころホームのみんなはそれぞれ

(令和6年3月10日発行 月刊「円福」522号付録)

の行事をととても楽しみにしていました。特に箏技大会自己ベストを更新するため全員本気で挑んでいました。本番では普段通り力が出せた子、緊張によりいつもより記録が振るわなかった子など様々でしたが、一人ひとり真剣に取り組む姿を見ることができました。結果はまごころ選抜チームが団体戦優勝、他にも表彰される子が多くとても誇らしく思いました。行事を通して新しい体験ができ、みんなの色んな一面を見ることができました。

もうすぐ今年度が終わり、大きな行事である卒園式があります。卒園生を良い形で送りだせるよう子どもたちと協力しながら準備を頑張っていきたいと思います。

調理室だより

調理員 M・C

2月の行事は「節分」から始まります。季節の変わり目である「立春・立夏・立秋・立冬」の前日のことを言います。年に4回ありますが、主に旧暦における一年の始まりの日「立春」の前日が最も重んじられています。

子供達には、豆まき行事や恵方巻を食べて、今年一年を元気で無事に過ごしてくれることを願っています。



2月4日(日) 節分メニュー

・恵方巻・豚汁・お豆のサラダ
手づくり3時のおやつ

・甘納豆蒸しパン

(お菓子)節分チョコマシュマロ

2月14日(日) バレンタイン午後3時のおやつ

・ココアマフィン

